

放射線科用 診療情報提供書

(CT・MRI・PET-CT検査依頼書)

鹿児島市立病院 放射線科 電話受付 宛

令和 年 月 日

☎ ①080-2729-9848 ②080-8596-4391

Fax 099-230-7112(直通)

紹介元	医療機関名		診療科	
	住所	〒	電話番号	
	医師名		FAX番号	
依頼検査	検査名 (目的・部位 造影の有無等)	<input type="checkbox"/> CT (<input type="checkbox"/> 単純・ <input type="checkbox"/> 造影) / <input type="checkbox"/> MRI (<input type="checkbox"/> 単純・ <input type="checkbox"/> 造影) / <input type="checkbox"/> PET-CT (検査の主体となる部位を記入)		
	検査日	令和 年 月 日 () 午前・午後 時 分		
フリガナ		生年月日(和暦・西暦)	年齢	性別
患者氏名		年 月 日生	歳	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
患者住所	〒	電話番号	本人・続柄()	
			必ず連絡可能な番号の記入を!	
主訴又は病名				
紹介目的 ・ 経過				
留意事項	各医療機関の様式をご利用いただいても結構です。 情報提供書別紙(有・無)			
	体内金属 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 部位 (<input type="checkbox"/> MRI対応)			
	薬剤アレルギー ()			
	その他 ()			
eGFR	造影の場合、3ヶ月以内のデータ mg/dl 令和 年 月 日			
心臓CT検査	・βブロッカの使用 (<input type="checkbox"/> 可 ・ <input type="checkbox"/> 不可)			
チェック欄	・血管拡張剤(ニトログリセリン舌下)の使用(<input type="checkbox"/> 可 ・ <input type="checkbox"/> 不可)			
紹介用画像	・CD-ROM (<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無)			

- 当日ご来院時に、1階総合受付まで来て頂けますようお願い致します。
- 造影検査に際し、eGFRの検査をご希望の場合、検査開始90分前にご来院いただけますようお願い申し上げます。
- 検査前確認事項

現在状況	外来 ・ 入院	糖尿病	無・有(空腹時血糖 mg/dl)
20分静止	可能 ・ 不可能(静止法)	感染症	無・有()
移動方法	歩行 ・ 杖 ・ 車イス・()	妊娠可能性	無・有
移動	介助不要 ・ 要介助	病状告知	無・有()
排尿	介助不要・要介助(オムツ・パルーン)	ペースメーカー	無・有
その他の留意点・ 必要な処置等			

[原則、当院より患者様への結果説明はいたしません。必要な場合は、その旨をご連絡ください。]

※お電話にて予定日の決定後、必要事項をご記入の上この用紙を
「放射線科 電話予約宛」へFAX送信してください。 FAX099-230-7112
ファックス後この用紙をお手元に保管してください。

※お手数 ですが、患者さんにコピーをしてお渡ください。

検査をお受けになる患者さんへ

CT検査のご案内

CT検査とは、X線が体の周囲を回転しながら撮影する検査です。コンピューター処理によって3D画像を作成することも可能です。

検査にかかる時間

造影剤を使用しない単純検査の場合は10分程度です。造影剤を使用する場合は、30分程度です。合図に合わせて10秒前後の呼吸停止をして頂くことがあります。検査の内容によって検査時間が延びることがあります。

また、緊急患者対応のため検査開始時刻が遅れる場合がありますのでご了承ください

次項に該当する方はお申し出ください

- 植込み型除細動器、脊髄刺激療法や深部刺激療法(DBS)装置を装着されている方
- 妊娠・授乳中、妊娠している可能性がある方 ※造影検査の場合
- お薬手帳(喘息・糖尿病薬等)をお持ちの方
- 過去にヨード性造影剤に対する過敏性(吐き気・くしゃみ等)があった方
- 透析をされている方 ● 発赤のある方 ● リブレ(グルコースモニタシステム)装着の方

来院前

- ・お食車について：腹部以外の検査では、食車制限はありません
腹部(胃・胆嚢)撮影の方は、検査の3時間前までに食事を済ませてください。のどが渇いた状態はよくありませんので、お水・お茶は 適度にお取りください。
- ・常用薬について：通常通りお飲みください
ただし、造影検査の場合、ヒグアナイド系糖尿病薬をお飲みの方は、検査日より前後2日間の休薬が必要です。(2日前、1日前、当日、1日後、2日後の5日間)
- ・来院時間について
検査予約時間は、60分前までに1階初診受付にお越しください。

検査前

- ・更衣について：検査着への更衣が必要な場合があります。ご案内します。
検査部位にあるアクセサリなどの金属類、エレキバン、カイロは外していただきます。
- ・造影検査について
3ヵ月以内のeGFRの値(腎機能の結果)が必要です。ご不明な場合は、当院で迅速適性検査を実施し検査を行います。eGFRの値が30未満の方は、造影検査が行えません。
造影剤の影響で身体が熱く感じる事がありますが、暫くすると元に戻りますのでご安心ください。

検査後

- ・飲食の制限はありません
 - ・検査結果をお届けするのに2~3日程度かかります。
- 〈造影剤を使用した方〉
造影剤は尿と一緒に排泄されます。水分補給を行い、速やかな排泄を促して下さい。

持参していただく書類

・診療情報提供書・マイナ保険証・各種医療証・診察券・同意書/問診票(造影検査の場合)

問い合わせ先 鹿児島市立病院 放射線科 電話受付
〒890-8760 鹿児島市上荒田町37-1
(直通) TEL ①080-2729-9848 ②080-8596-4391

CT 検査予約票

患者 ID : _____ 患者氏名 _____ M/F _____ 歳

身長 _____ cm 体重 _____ kg

検査日 年 月 日 () 時 分

検査当日は総合受付で手続きを行い 時 分までに1階外来 B ブロック受付(放射線科外来)へお越しください。

*総合受付での手続きに時間を要する場合がありますので、時間に余裕をもってお越し下さい。

★CT 検査の注意事項

- 現在妊娠している方、または妊娠している可能性がある方は、CT 検査ができない場合があります。事前にお電話でご相談ください。

胃のバリウム検査・大腸バリウム検査(注腸検査)を受けた方の CT 検査

- 胃のバリウム検査・大腸バリウム検査(注腸検査)を受けられた方が、胸部・腹部・骨盤のCT検査をお受けになる場合は、1週間あけてお受けになることをお奨めします。

(人体には影響ありませんが、画像にノイズが入り画質の劣化になる場合があります。)

★お食事の制限

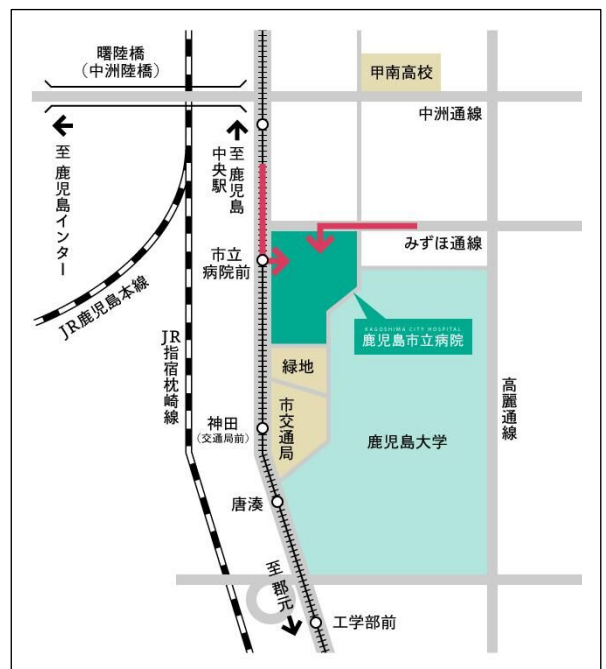
- 腹部 CT 検査を受けられる方は、検査前3時間以内は食事(アメ、ガム等含む)、水分(牛乳やクリームの入ったコーヒーなど乳製品や糖分が入っているもの)はとらないで下さい。(水やお茶などはとることができます)

- 造影剤使用の検査では喘息や薬剤アレルギーがある方は造影剤の使用が制限される場合がございます。

ご心配な方は検査前にお問合せください。

- その他の方は、特に食事制限はございません。

- ・ご都合により来院できない場合は、早めにご連絡ください。
- ・検査の都合などで、検査の開始および終了時間が多少前後る場合がありますのでご了承ください。
- ・順番が来ましたら、看護師または担当技師が呼びます。



問い合わせ先

鹿児島市立病院 放射線科 電話予約

TEL ①080-2729-9848 ②080-8596-4391

CT検査におけるヨード造影剤使用に関する説明書

当院では造影剤を使った検査を受けられる方に、造影剤検査のご説明いたします。
全身状態や検査の内容により、検査担当医の判断で造影剤を使用しない場合もあります。

《ヨード造影剤について》

1. ヨード造影剤は血管や臓器およびその周辺の構造をより明瞭に映し出す薬剤で、病気の有無や性質、進展範囲などをより詳しく評価するために使用します。検査部位によっては、造影剤を使用しないと極めて重大な病変が見逃されてしまう可能性があります。
2. 造影剤の注射中に、全身が熱く感じるがありますが、異常ではありません。熱さは、徐々になくなります。腎機能が正常であれば、通常2時間で60%が、24時間後にはほぼ全量が尿中に排泄されます。
3. 造影剤は基本的には安全な薬剤ですが、下記のような副作用が生じることが知られています。これらの副作用は予測不可能で、以前に造影剤で副作用の無かった方でも生じることがあります。

《副作用について》

すべての方に安全な薬剤は残念ながらなく、造影剤も一定頻度で副作用が起こり、予測できることは出来ません。しかし、副作用が生じる可能性が高い体質がないか、造影剤の影響を受けやすい病気がないか、前もって確認することで安全性を高めることができます。問診票にお答え下さい。

アレルギー体質の方は副作用の発現率が約3倍高く、特に気管支喘息の方は約10倍高いと言われております。そのため、気管支喘息の方は、造影剤を使用できないこともあります。

1. 軽い副作用： かゆみ、発疹、発赤、悪心、嘔気
これらの副作用は、3%前後の頻度で起こりますが、通常は治療を必要とせず、検査当日でほぼ治まります。水分を多めに飲んで下さい。
2. 重篤な副作用： 血圧低下（ショック）、意識消失、痙攣発作、腎不全、息苦しさ・嘔声（喉頭浮腫）
発生する頻度は、0.004%（2.5万人に1人）とわずかですが、治療が必要で重症になる可能性もあります。当院では救命センターと連携し、速やかに対応できる万全の体制で検査を行っています。他の多くの薬剤と同様、ごく稀に死亡例（0.00025%、40万人に1人）の報告もあります。
3. 遅発性副作用： かゆみ、発疹など
5%前後の方に検査後1時間から数日で発生することがあります。通常は治療を必要としませんが、症状が強いなど心配な時は、主治医にお申し出下さい。
4. 血管外漏出： 注射する際に造影剤が血管外に漏れて（約0.3%、300人に1人）、注射部位の腫れや痛みを伴うことがあります。通常は時間がたてば吸収されるので心配ありません。多く漏れた場合などで、処置が必要となることもあります。

《併用注意薬剤について》

一部の糖尿病治療薬（ビグアイド系薬剤）では、ヨード造影剤との相互作用で、乳酸アシドーシスと呼ばれる重篤な副作用を起こす可能性があり、**併用注意**となっています。これらのお薬は、**造影剤投与の前後2日間、服用を中止**する必要があります。①の問診票に示したお薬を飲んでいる場合は、主治医に確認して、服用を一時的に中止して下さい。ただし、緊急の場合などで、ヨード造影剤投与がどうしても必要な場合には服用中であっても検査を行うことがあります。

【 ヨード造影剤使用検査に関する問診票・同意書 】

患者様氏名 [] 歳 性別 男性・女性 体重 kg

《 依頼医師 記入欄 》 ●下記の質問に☑でお答えください。また必要に応じて記入ください。

問 診 欄	1	今までに血管注射による造影剤を用いた検査を受けたことがありますか？ (バリウムによる胃腸検査は含みません)	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	CT、MR、腎臓尿管造影、胆のう造影 血管造影 その他(わかれば記載) _____
	2	その時副作用がありましたか？	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	蕁麻疹、発疹、吐き気、くしゃみ、発汗、 紅潮、呼吸困難、血圧低下、ショック、 その他 _____
	3	今までに喘息の既往がありますか。 (活動性/非活動性)	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	気管支喘息と診断されたことはありますか。 あり (治療中、治療していない)
	4	アレルギー性の病気がありますか？	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、 じんましん、化粧品などのカブレ、その他
	5	右の疾患の既往がありますか？	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	腎疾患、心疾患、甲状腺疾患、褐色細胞 腫、マクログロブリン血症、テタニー
	6	糖尿病と診断されたことはありますか。また、 治療薬をお飲みですか。	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	薬品名:

《 注意事項 》

- (1) 糖尿病薬の種類によっては、造影剤との併用で乳酸アシドーシスという副作用の危険性が高まります。検査の前後48時間は糖尿病薬の服用を中止していただくようになります。
- (2) ヨード造影剤による副作用は以下のようなものがあります。
- 1、発疹、かゆみ、蕁麻疹、クシャミ、咳、咽頭不快感、嘔気、嘔吐、熱感など
 - 2、遅発性副作用 (数時間から数日後上記の症状が出現)
 - 3、ショック症状
 - 4、血管外漏出

【造影剤による検査の説明・同意書】

CT検査では、造影剤の注射をすることがあります。造影剤は病気の診断に役立つ薬剤ですが、まれに以下のような副作用が起こる場合があります。

1) 軽い副作用 (30人に1人程度の頻度: 3%)

吐き気、嘔吐、蕁麻疹、くしゃみ、頭痛、熱感、などが生じることがあります。

2) 重い副作用 (3万人に1人程度の頻度: 0.03%)

血圧低下、呼吸困難、ショック、腎不全など。

極めて稀ですが、死亡例もあります。(30万人に1人程度: 0.0003%) (造影剤の副作用ハンドブックより)

※病気により造影剤を使用出来ない場合もあります。

(ヨード過敏症、重篤な甲状腺疾患、気管支喘息、アレルギー体質、腎障害、重度心疾患 のある方)

私は造影CT検査の必要性和副作用について説明を受け理解しましたので造影検査に同意致します。

令和 年 月 日

患者様氏名

ご家族氏名

(続柄)

鹿児島市立病院

造影検査を受けられた方へ

本日、あなたが受けられた造影検査では、下記の造影剤を使用いたしました。

使用日時 年 月 日 午前・午後 時 分

薬品名 () イオパミドール () イオヘキソール () イオメロン
 () オムニパーク

このお薬は、尿と一緒に排出されます（腎臓の機能が正常な方では、約2時間で注射されたお薬の半分が排出されます）。本来体に対する影響の少ないお薬ではありますが、なるべく早く体の外へ出すことが理想的で望ましいと言われております。本日は水分（お水、お茶など）を多めに摂るようにして下さい。食事は普段どおりで結構です。ただし、糖尿病、腎臓病、肝臓病、高血圧症などで水分制限を指導されている方や、食事療法を行っていらっしゃる方は主治医にご相談下さい。

本日ヨード造影剤を使用した方は、場合によってまれではありますが検査終了後1時間から数日の間に下記のような症状が現れることがあります。

じん麻疹、手足のむくみ、かゆみ、吐き気、咳、のどのイガイガ感、
声がかれる、頭痛、めまい、息苦しい、胸が苦しい など

これらの症状やその他何か異常が現れた場合は、ただちに診察を受けられた診療科にご連絡下さい。その際には、この用紙を必ずご準備下さい。

また、その他今回の検査で何か変わった症状が現れた方は、後日でも結構ですので必ず主治医にその旨をお伝え下さい。さらに、次に造影検査を受けられる際にも検査担当医師にお伝え下さい。

【連絡先】

鹿児島市立病院

〒890-8760

鹿児島市上荒田町 37-1

電話代表 099-230-7000

FAX 代表 099-230-7070

※業務時間外(17時15分以降) 救急センターの方へお問い合わせ下さい。

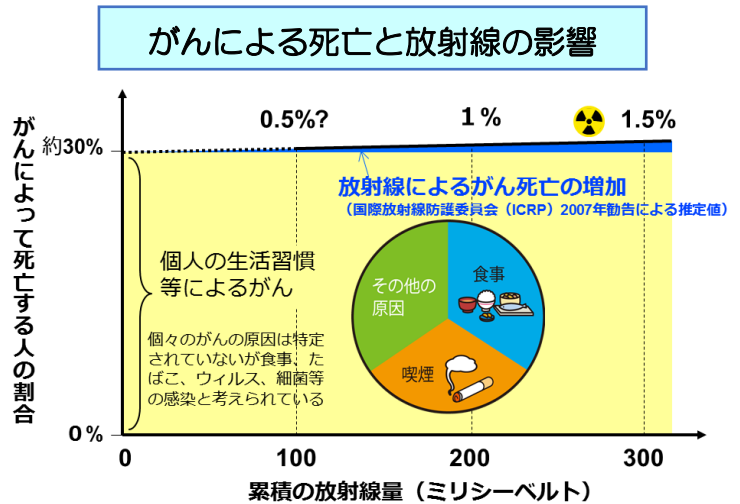
放射線検査を受けられる方へ

-放射線の影響についての説明-

患者様の病気やケガなどを詳しく検査する必要があります。そのため、放射線検査を行うことになりました。検査では、放射線を用いて、身体の内部を細かく画像化することが出来ます。そのため、僅かですが放射線被ばくを受けることになります。

*放射線がからだに及ぼす影響について

放射線の影響には、確定的影響と確率的影響があります。確定的影響には、これ以上になると稀に影響が生じる可能性が示唆されるしきい値（線量）が存在すると考えられています。通常の検査では、このしきい線量を超えるような放射線量を用いることはありません。一方、確率的影響は主に発がんについて示されたもので、100 ミリシーベルト未満であれば、放射線検査を受けた人も受けなかった人も、**発がん率や遺伝的な影響の差はない**とされています。今回の検査で使用される放射線量は、多くて20 ミリシーベルト程度（CT検査時）で放射線の影響は、ほとんどありません。



出典：国立がん研究センターウェブサイト

*検査の正当性（検査しても被ばくの影響は大丈夫？）

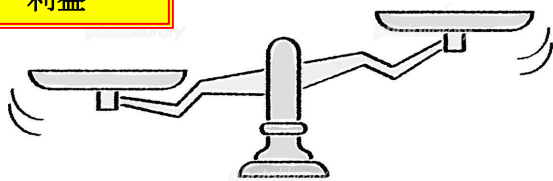
放射線検査は、得られる医療情報による利益が被ばくによるリスクより十分に大きいと判断される場合に行われます。

放射線によって健康への影響があるかもしれないと考えはじめる数値は100 ミリシーベルト

1回の画像検査で100 ミリシーベルトを越えることはない

検査を受ける利益

被ばくに伴う危険



患者様が悩んでいる疾患を解決するために必要な検査
→ 検査をしないと解決が先延ばしになります。

また、放射線検査を一定期間毎にお奨めすることもあります。そうすることで病気の発見や異変、治療効果など適正に検出し、最善の治療につなげることにより、患者さんの「生活の質」の保持・向上に寄与するために行うものです。なお、複数回の放射線検査を受けた場合、その影響が蓄積するわけではありません。からだには、けがの回復と同じように、放射線による影響に対しても修復機能が働きます。例えば、ある線量を何回かに分けて受けた場合、一度に受けた場合よりも影響は小さくなることが知られています。

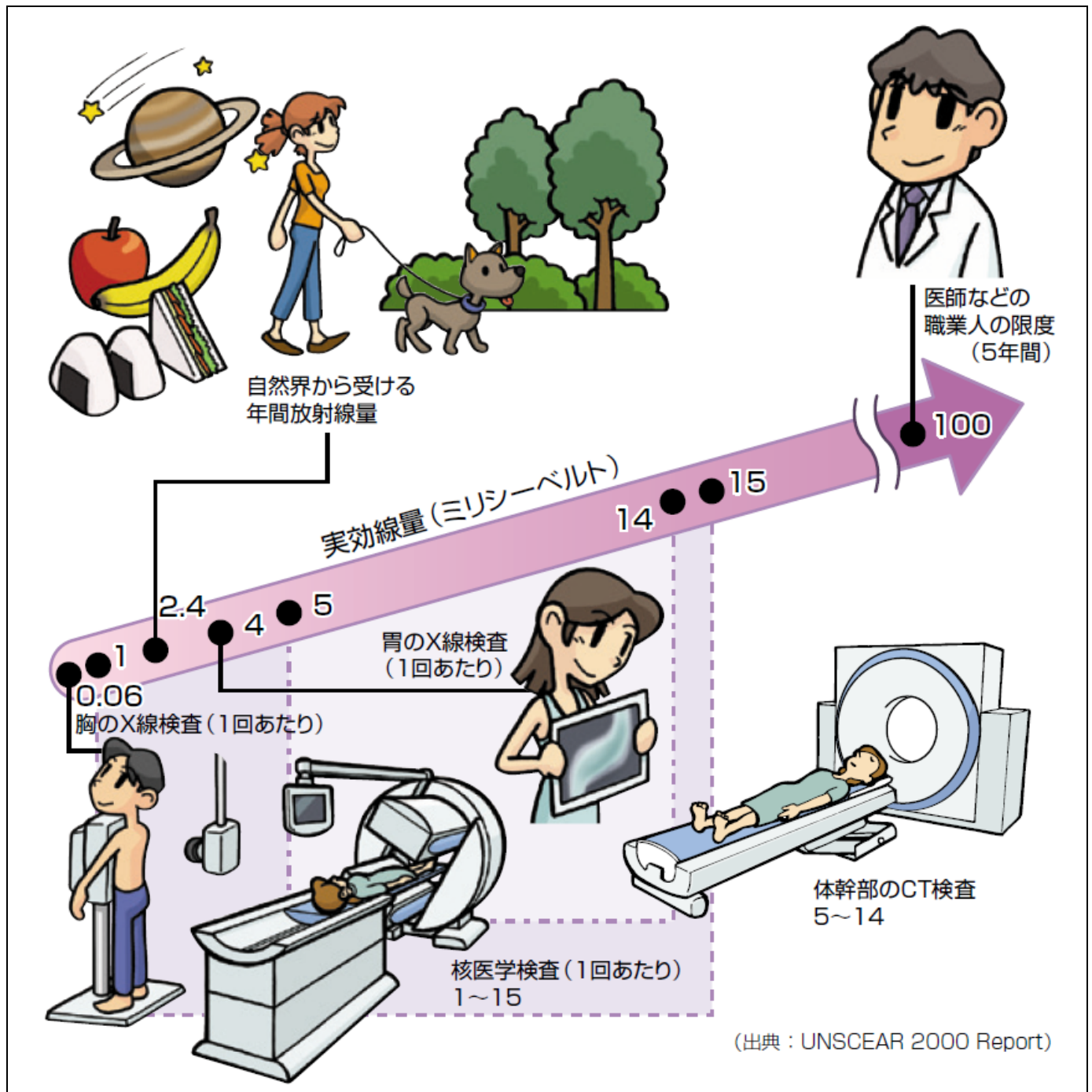
当院での放射線被ばく低減の試み（最適化）

当院では、診断参考レベルといわれる患者被ばくの適正化に使用される指標を用いて、照射線量を最適化しています。また、様々な被ばく低減技術を利用し、放射線量の低減を行っています。小児においては、小児専用の撮影条件を作成し、より一層被ばく線量の低減に努めています。

* 日常生活における放射線

私たちは日常生活においても、わずかですが天然の放射線を受けています。大地に含まれる天然のアイソトープからの放射線、宇宙からやってくる放射線の一種である宇宙線、食事などによりからだの中に入る天然のアイソトープなどがあります。これらをすべて総合すると1年間に約2.4ミリシーベルト（世界の平均値）の放射線を受けています。

胸部のレントゲン撮影では、1回におよそ0.06ミリシーベルト、CT検査では、1回におよそ、5～14ミリシーベルト（撮影部位によって異なります。）、核医学検査では、1回におよそ1～15ミリシーベルトの放射線を受けます。



日本アイソトープ協会「なぜ核医学検査を受けるの」より